

## 国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
3年間かけて常用漢字の大体を読めるようになり、また学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で使えるようになる。	自分の伝えたいことを、表現や構成を工夫しながら正確に伝えられる文章が書けるようになる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文の内容に具体性をもたせ、相手が理解できる内容を書くことに課題がある。ア</li> <li>漢字の読みについては問題がないが、書く能力については定着に課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>200字作文を書く活動の中で相手意識と目的意識を踏まえ、構成について交流を行う。ア</li> <li>週に一度漢字テストを実施し、必要な生徒には再テストや追加課題を課す。イ</li> </ul>	ア 後期 イ 前期～後期	ア 年間を通じて200字作文を作成することで自分の思いを表すことができた。 イ 週1回の漢字テスト実施により、語彙を増やすことができた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字テストでは書くことができるが、日常の文章で適切に漢字を使用して書くことが苦手な生徒が多い。ア</li> <li>文章を書くことに抵抗感がある生徒が一定数いる。適切な語彙を選択したり筋道の通った説明をしたりすることが苦手な生徒が多い。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査や授業内の小テストを通じて知識の定着を図るとともに、短文を作成するなど、覚えた知識を実際に使う場面を増やす。ア</li> <li>説明文等を200字程度で自分の意見をまとめる練習を行い、徐々に字数を増やしていく。論理の展開や表現について学習する場面を設ける。イ</li> </ul>	ア 前期～後期 イ 後期	ア 年間を通じて漢字小テストや単元初めの語句確認、短文作成に取り組み語彙を増やした。 イ 統括型、尾括型、総括型について学習し、字数や目的に応じて形式を選んでまとまりのある文章を書く練習を行った。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人差はあるが、全体的に漢字を書く能力の定着に課題がある。ア</li> <li>作文の内容に具体性をもたせ、構成を工夫して書くことに課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内の小テストを繰り返し行う。必要に応じて復習プリントなどに取り組みさせる。ア</li> <li>200～300字の作文で自分の意見をまとめる機会を増やす。また、推敲や交流を通して文章をよりよくする機会を設ける。イ</li> </ul>	ア 前期～後期 イ 後期	ア 週1回の漢字小テストや休み明けの確認テスト、復習プリントに取り組むことで漢字の定着を図った。 イ 年間を通じて200字程度の作文を書き、推敲・交流を続けることで構成や読者を意識した文章が書けるようになってきた。

## ■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・教材に対する興味や関心をもたせるための活動に活用する。
- ・互いの考えを共有し、助言し合う活動に活用する。
- ・発表(個人・グループ)において資料の提示等に活用する。
- ・情報の収集をしたうえで文章を書いてまとめる授業に活用する。

## ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・授業ごとに授業プリントを作成する。
- ・単元や授業の最初に目標や授業の流れについて説明する。
- ・振り返りの記述を共有することでより深い学びへと促す。
- ・評価については最初の授業で説明する。

## 社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
社会的事象の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するとともに、それらを社会に見られる諸問題の解決のために生きて働く「概念的な知識」に昇華させることができる。	「社会的な見方・考え方」を働かせながら、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想(選択・判断)したりすることができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	①断片的な知識でとどまっている生徒が多く、多様な知識を関連付けることに課題がある。ア ②資料から読み取って考察するにあたり、根拠や論理性に欠けることが多い。イ	①社会的事象を位置的・時間的・構造的に関連付けながら授業を進めていく。 ②課題解決学習の機会を定期的に設け、根拠を基に発表させることや、批判させることを行う。	①各授業の導入 まとめ ②各授業の発表時 各単元のまとめ	①未だ複数の知識を関連付けさせることに課題がある生徒がいる。主題図などを有効活用する必要がある。 ②課題解決学習を行い、根拠を基に論理的に表現できる生徒が増えた。
第2学年	①基礎的・基本的な知識はおおむね定着しているが、新しく学ぶ内容を既習事項と関連させることには課題がある。ア ②多面的・多角的な考察ができるようになったが、諸問題について自分事として解決策を構想することには課題がある。イ	①授業開始、単元開始時に基礎的な用語の復習を行う。また、既習事項がどのように関連しているのかを伝え合う時間を設ける。 ②社会問題について授業内で触れ、自分たちの生活とのつながりを考える機会を設ける。	①各授業 各単元の冒頭 ②各単元1回以上	①単元の振り返りとしてグループワークを行った。知識と知識が結び付き、より深い学びにつながる生徒が多く見られた。 ②歴史的分野においても、現代社会との関連が分かるような資料を作成し、自分事として考えられるようにした。
第3学年	①基礎的・基本的な知識や技能はおおむね定着しているが、「概念的な知識」を身に付けている生徒が少ない。ア ②複数の資料や情報を関連付けて考察することに課題がある。イ	①社会的事象に対して、社会科の3分野を意識させながら授業を進めていく。 ②複数の資料を活用させるレポートの課題を出し、個に合わせて学習に取り組ませる。	①各授業 ②各学期	①3分野それぞれの知識だけでなく、社会科としての「概念的な知識」を身に付けた生徒が増えた。 ②複数の資料をそれぞれ読み取ることができるようになったが、考察することは難しい生徒がいる。

## ■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・資料の読み取りの際に、画面共有を行うなど、ポイントを分かりやすく提示する。
- ・ロイロノートを活用し、意見等を提出させ、全体共有に活用する。また、その意見を踏まえて、個人の振り返りにつなげる。
- ・ロイロノートを活用して課題提出を行うとともに、評価やフィードバックをオンライン上で行う。

## ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・「持続可能な社会の担い手としてどのような考え方が必要か。自分自身に何ができそうか。」ということを記述させたり、話し合わせたりする。
- ・実生活との関連を考えさせたり、学習内容を踏まえて社会に見られる諸課題の解決に向けた構想を行わせたりする。
- ・「振り返りシート」を活用し、学習を通じた自身の変化に気付かせる。例えば、単元の導入で学習課題(「問い」)を提示して回答を予想させたり、各項の授業後に回答の深まり具合を確かめたりする。

## 数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。	数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を身に付ける。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な計算は身に付いている生徒が多い。ア</li> <li>活用問題では、既習事項との結び付きを意識することが難しい生徒も見受けられる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時に復習問題に取り組ませることで、基本的な知識・技能の習得を図る。</li> <li>小テストを行い、基本的な知識・技能が身に付いているかを確認する。</li> <li>文章問題では、立式する前に図や表を活用して全体の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時</li> <li>習熟の程度に応じて</li> <li>単元ごと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア授業開始時に復習問題を解くことで、基礎・基本を確認し、定着させることができた。</li> <li>イ図や表を提示することで理解は促されたが、生徒自身が活用できるよう指導していく。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な内容理解が十分でない生徒がいる。ア</li> <li>文章問題や発展的な課題への苦手意識が強く、考えを数学的に表現することが難しい生徒が多くいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時に既習事項の復習、小テストを行い、基本的な知識・技能の定着を図る。</li> <li>文章問題を考えるときに最初から文字で考えるのではなく、具体的な数字で考えられるようにする。</li> <li>説明し合う活動を通して、問題を多角的にとらえ、的確な表現方法を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時</li> <li>習熟の程度に応じて</li> <li>単元ごとに複数回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア小テストで正答できる生徒が増えたが、知識の定着には課題がある生徒もいるため、継続して指導していきたい。</li> <li>イ教え合うことで理解が深まった。また、発展的な課題に粘り強く取り組む姿勢が見られた。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な計算は身に付いている生徒が多い。ア</li> <li>文章問題に苦手意識をもつ生徒が多く、問題から立式することが難しい。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時に復習問題に取り組ませることで、基本的な知識・技能の習得を図る。</li> <li>小テストを行い、基本的な知識・技能が身に付いているかを確認させる。</li> <li>定期的に自分の学習状況を振り返らせ、学習方法の改善を図る。</li> <li>文章問題では、立式する前に図や表を活用して全体の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時</li> <li>習熟の程度に応じて</li> <li>単元ごと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア授業開始時に復習問題を解くことで、基礎・基本を確認し、定着させることができた。</li> <li>イ図や表を活用し、問題に取り組むことができた。また、学習状況を振り返ることで、問題解決の方法を改善した。</li> </ul>

## ■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・タブレット端末を活用し、生徒のノートやワークシートを写し、課題解決の過程を全体で共有する。それを個で考えるときのヒントとして役立てたり、授業のねらいに沿って、生徒の考えから練り上げ、考察を深めたりするときに用いる。

・また、教科書にある D マークコンテンツを活用し、グラフや図形を動かすなどして事象を視覚的に捉え、考察をする。

## ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

・自力解決の前に既習事項との関連を意識させた見通しの時間をとる。

・また、授業の最初に簡単な小テストを行い、前回までの学習内容を振り返る。単元の終わりや定期考査後に、学習内容の振り返りを記入することで、自分で学んだことを整理する時間をとる。

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解する。</li> <li>・科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈する。</li> <li>・科学的根拠を基に論理的に表現することができる。</li> </ul>

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア</li> <li>・科学的根拠を基に思考・表現する力に課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項について、毎時間初めに振り返りを行い、繰り返し基本的な概念や原理の定着を図る。</li> <li>・実験結果を基に考察できることを話し合い、自分の考えを表現する場や他者の考えを聞く機会を設定する。また、単元末に科学的根拠を基に思考・表現する課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時</li> <li>・実験後、単元末</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 既習事項をこまめに振り返ることで、基本的な概念や知識を定着させることにつながっている。</li> <li>イ 日頃から班員と考え、互いに教え合う機会を設けることで、全体の場で抵抗感の大きい生徒も自分の考えを表現する場面を設定することができた。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア</li> <li>・抽象的な概念について、それを用いた思考する力に個人差が見られる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を比較し、そこから規則性や法則を、振り返りシートやテストを行うことで理解させる。</li> <li>・個々の実験結果を、既習事項と原理や法則と結び付けて思考する場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時</li> <li>・実験前後</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 日常生活で起こる事象と結び付けることで、知識を定着させることができた。</li> <li>イ 班員と協力することで自らの考えをもつことができる生徒は増えている。発表の場面を設けて継続していく。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念や原理・法則については理解している生徒が多い。ア</li> <li>・基礎的な学習内容と結び付け、自然の事物現象について科学的根拠を基に論理的に思考・表現することに課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念や原理・法則を基に発展的に考える課題を多く取り入れる。</li> <li>・自然の事物現象においての課題を共有し、実験の見通しを確認・共有する。また、事後に生徒が科学的根拠を基に論理的に説明や表現する機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時</li> <li>・実験前後</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 身の回りの事象についても関心をもって質問する生徒が増えてきている。基本的な原理や知識は身に付けてきている。</li> <li>イ 班員と協力することで自らの考えをもつことができる生徒は増えている。発表の場面を設けて継続していく。</li> </ul>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有パフォーマンステストへの活用 2年 インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有 3年 インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有レポート作成等	1年 身の回りの事象から学習内容に結び付け、学習意欲を育む定期テストの振り返り 2年 身近な事象と学習内容を結び付け、学習意欲を育む学習の振り返りシートの実施、定期テストの振り返り 3年 振り返りシートの実施(随時)、定期テストの振り返り



音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
創意工夫を生かした表現で歌唱するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、積極的に歌唱する力を身に付ける。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	授業内で学んだことを踏まえて、自分の考えをまとめることや文章などで表現することに課題がある。イ	意見交換したことを忘れないようにメモできるようなワークシートを活用していく。	単元ごと	イ学んだことをまとめることはできるようになってきた。自分の考えを表現しようとする姿勢が見られた。
第2学年	歌唱の際、声量が出にくいことがあり、全体的に声量を上げていく必要がある。ア	歌唱の前に、発声練習を重点的にを行い、声量を上げることに力を入れる。また、主に歌のテストの際に改善点はどこかをしっかりと伝えていく。	毎時 歌のテストは学期ごと	ア声の出し方を伝え、やってみようという前向きな姿勢が見られた。声掛けを継続していく。
第3学年	自分の想いを踏まえて考えをまとめ、文章などで表現することに課題がある。イ	鑑賞の際に学んだことと、自分の考えを両方メモできるようにワークシートやロイロノートを活用していく、それらを踏まえてまとめを書くように伝えていく。	単元ごと	イ授業内で身に付けた知識や、自分の想いを文章にまとめることができる生徒が増えてきた。

<b>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</b> タブレット端末を活用し、毎時振り返りを記入させることで、授業内でできるようになったことや改善点を自ら見付けられるようにする。またその振り返りにフィードバックを返すことで、生徒との交流を図っていく。	<b>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</b> 振り返りカードを毎回記入させることで、成果や改善点を生徒自ら考え、次時につなげる。次回頑張りたいことを振り返りに書くことで、次回の授業をどう取り組んでいくかの見通しをもてるようにする。
--	--

## 美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的なデッサンやモチーフの観察がおおむねできている。ア イ</li> <li>・基礎的な構成力がおおむねできている。ア イ</li> <li>・知識、理解について個人差が見られる。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。ア イ</li> <li>・タブレット端末を用いた授業を行う。ア イ</li> <li>・視聴覚教材やプリントを準備する。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の始め。</li> <li>・適宜</li> <li>・定期考査前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね達成できた。</li> <li>・構成というイメージの理解が難しい様子だった。</li> <li>・定期考査における問題内容等の考慮が必要である。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想や構想面で技量の個人差が大きい。ア イ</li> <li>・基礎的な表現をベースにした、応用的な表現内容に課題がある。ア イ</li> <li>・知識、理解について個人差が見られる。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。ア イ</li> <li>・タブレット端末を用いて、発想や構想を深める。ア イ</li> <li>・視聴覚教材やプリントを準備する。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の始め。</li> <li>・適宜</li> <li>・定期考査前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想面には課題が残った。</li> <li>・端末を参考にするのではなく、真似てしまうケースが見られた。</li> <li>・定期考査における問題内容等の考慮が必要である。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現内容と技能がおおむねできている。ア イ</li> <li>・個々の思考力に差が見られる。ア イ</li> <li>・知識、理解について個人差が見られる。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。ア イ</li> <li>・タブレット端末を用いて、発想や構想を深める。ア イ</li> <li>・視聴覚教材やプリントを準備する。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の始め。</li> <li>・適宜</li> <li>・定期考査前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い表現内容と技能の作品が多く見られた。</li> <li>・端末を参考にするのではなく、真似てしまうケースが見られた。</li> <li>・定期考査における問題内容等の考慮が必要である。</li> </ul>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
課題の発想や構想の段階で、自分のイメージを具現化する事に活用したり、具体的に表現したいモチーフを調べるために活用する。(1、2、3年)	作品のコンセプトを明確にして、自己の作品を振り返る。(1、2、3年) 作品展の相互鑑賞により、発想や表現方法を学ぶ。(1、2、3年)

## 保健体育科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
健康・安全についての理解を深め、生涯にわたり健康を保持増進し、運動技能を習得させ、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。	主体的・協働的な学習活動を通して、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る方法を探究する力を育成する。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア運動を楽しもうとする生徒は多いが、知識や技能の習得につながっていないことがある。</p> <p>イペアワークやグループ学習で対話的な学習を苦手と感じている生徒が多く、協働的な学びが課題である。</p>	<p>ア学習カードやタブレット端末を用いて自身の課題を明らかにしながら、運動に必要な知識を習得し技能の向上につなげさせる。</p> <p>イペアなど少人数グループでの学習を中心にを行い、互いに教え合う時間を作り、対話的な場面を増やし学習意欲を高める。</p>	年間を通じてどの運動領域についても行っていく。	<p>ア学習カードの活用は定着したが、タブレット端末の活用については課題がある。引き続き来年度も継続したい。</p> <p>イお互いに意見を共有する機会ができ、十分に理解できる生徒が増えた。</p>
第2学年	<p>ア運動が苦手だと感じている生徒が多く、どのように技能を習得していけばよいのかを考えることに苦手意識をもっていると感じる。イ対話的な活動に対する力にやや課題があり、個々での活動が中心となっている。</p>	<p>アタブレット端末を活用して、自身の動きを分析的に確認し、課題を明らかにできるような学習を進めるようにする。</p> <p>イ少人数のグループ活動から学習を展開し、互いに助言し合うなど対話的な学習の場面を増やす。</p>	年間を通じてどの運動領域についても行っていく。	<p>ア単元によってはタブレット端末を活用する場面も増え、自身の動きを分析的に捉えることができる生徒が増えた。</p> <p>イグループ活動を通して対話的な活動が増え、意見などをまとめる能力も成長した。</p>
第3学年	<p>ア体力や運動能力に優れている生徒がいる一方で、苦手と感じている生徒も多い。今後は生活習慣の変化によって体力が低下しないように運動習慣を継続させていく力を付けたい。</p> <p>イ場の雰囲気に流されてしまう生徒が多く見られ、積極的に課題解決を図ろうとする意識を高めることが課題である。</p>	<p>ア体力テストの結果から自己の体力を理解させ、目標を立てさせ、必要な運動を継続して行わせ体力の向上を図る。</p> <p>イ学習カードやタブレット端末を活用して自己の運動課題を見付け、解決方法を探究する学習をグループで行い対話的で深い学びにしていける。</p>	年間を通じてどの運動領域についても行っていく。	<p>ア毎時間の活動の中で自己の体力に合った運動を継続して行える生徒が増えた。</p> <p>イ対話的な活動の機会を増やしたことで、作戦等を共有して球技などの実技に取り組む生徒が増えた。</p>

## ■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・習得すべき知能や技能について常に調べられるようにする。
- ・ペアワークやグループ学習において、お互いの動きを撮影し、分析的に意見を出し合う活動を行う。
- ・ロイロノートを活用し、各自の課題を提出させる。

## ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・学習カードを使用したグループ学習の取組により、仲間と考えや気付きを共有させ、互いに助言し合い、その内容を記録しながら学習を振り返り、「対話的で深い学び」を通じて、学びに向かう力の育成を図る。

## 技術・家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と結び付けることができる。	生活から課題を見付け、身に付けた知識を基に解決策を考え実践しようとしている。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能に対する理解と習得に課題がある生徒が多い。<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力が弱い傾向にある。<input type="checkbox"/>イ</li> <li>・特に言語や画像から具体物をイメージする力に課題がある。<input type="checkbox"/>イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにする<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・生徒の特性に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。<input type="checkbox"/>イ</li> </ul>	毎時間 <input type="checkbox"/> ア、 <input type="checkbox"/> イ	<input type="checkbox"/> ア映像を見せたことで理解が進み、学習に前向きな生徒が増えた。来年度も継続したい。 <input type="checkbox"/> イお互いに説明・質問する機会ができ、十分に理解できる生徒が増えた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能に対する理解と習得に課題がある生徒が多い。<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力が弱い傾向にある。<input type="checkbox"/>イ</li> <li>・特に例と実物を結び付け、実践する力に課題がある。<input type="checkbox"/>イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにする<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・生徒の特性に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。<input type="checkbox"/>イ</li> </ul>	毎時間 <input type="checkbox"/> ア、 <input type="checkbox"/> イ	<input type="checkbox"/> ア視覚からの情報と言語化された情報を結び付けて理解できる生徒が増えた。 <input type="checkbox"/> イ質問してきた相手に合わせて答えを工夫する生徒がでてきた。説明することを通して、まとめる能力も成長した。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能に対する理解と習得の差が大きく、個別な支援が必要な生徒がいる。<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力が弱い傾向にある。<input type="checkbox"/>イ</li> <li>・特に言語から具体物をイメージする力に課題がある。<input type="checkbox"/>イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにする<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・生徒の特性に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。<input type="checkbox"/>ア</li> <li>・自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。<input type="checkbox"/>イ</li> </ul>	毎時間 <input type="checkbox"/> ア、 <input type="checkbox"/> イ	<input type="checkbox"/> ア説明と実践を結び付けて理解し、さらに説明できる生徒ができた。 <input type="checkbox"/> イ質問を先読みして相手に説明する生徒が増えた。図などを使って説明する工夫も見られた。

## ■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

タブレットを使用し、お互いに意見交換をさせることで自分の考えなどをより深化させる。また、スライドなどを作らせ自分の考えを目に見える形で言語化することで、第三者に伝える技術を向上させる。

## ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

振り返りシートを使って学習の積み重ねに見通しをもたせる。具体的には自分が頑張ったことや、その時間で学んだ事を振り返りシートを使って記録として残させる。さらに、次の授業で目標を立てるときに振り返りシートを使って考えさせる。



## 英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
コミュニケーションの中で、基本的な語彙や文構造を活用する力や、自らの考えを相手に伝えるための「発信力」を養う。	聞くことや読むことを通じて得た知識を、自らの体験や考えと結び付けながら活用する、「話す力」「書く力」を養う。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	つづりを覚えることや文構造の定着にはまだ課題がある。また、自己表現の際に、既習内容を活用することにも課題がある。	ア 会話練習を通して、学習した語句や文法表現の反復練習を行う。ペアで学び合うことで語彙や文構造の定着を図る。 イ 自己表現の際に、教科書本文やリスニング音声で使われている表現を活用するよう指導する。自己の学習状況に応じて、語句を変えたり順序立てて文を組み合わせたように指導する。	授業ごとに目標を設定し、実施する。	ア 単元テストの実施、教科カウンセリングや早朝学習の個別指導を充実させ、勉強の方法や英単語を覚えられようになってきた。 イ 会話練習やスピーキング等で自ら考えて英文を活用できるようになった。
第2学年	単語の発音とつづりを一致させること、動詞の活用や文構造の定着に課題がある。また、英語の学習に苦手意識をもっている生徒が多い。	ア 単語の発音練習や音読練習を十分に行い、発音とつづりを一致させる。また、問題演習や会話練習を通して、学習した語句や文法表現の定着を図る。モデルとなる音声や会話を聞く際に、デジタル教科書を活用することで個別最適な学びを促す。 イ 自己表現の際に、新しく学習した語句や文法表現を積極的に活用するよう指導する。教科書本文やリスニング音声で使われている会話を参考にしながら、自己の伝えたい内容に合わせて、語句を変えたり、順序立てて文を組み合わせたように指導する。	授業ごとに課題を設定し、実施する。	ア 発音練習の際に声に出している文字をなぞることで、発音とつづりの違いに気づき、音声からつづりを予測できるようになってきている。 イ 各単元で学習した文法表現等を活用する自己表現活動を繰り返し行うことで、教科書本文やリスニング音声で使われている英文に意識的に着目するようになっていく。今後は場面設定を工夫し、幅広い語彙を使えるように指導する。
第3学年	表現したい意志はもっているものの、表現方法が分からない生徒が多い。また、まとまった内容の英文を一定時間内に話すことにも課題がある。	ペア活動、グループ活動を取り入れることで、不得意な生徒も仲間に支えられながら学習できるよう工夫する。 ア どんな内容も、簡便な表現で表すことができることを、継続して指導する。生徒が表現したこと(筆記したもの)を繰り返し添削し、定着を図る。 イ パフォーマンステストを通して、教科書の表現を活用しながらまとまった内容の話をする習慣を付け、定着を図る。	授業ごとに課題を設定し、実施する。	ア 繰り返し添削、フィードバック、グループ内での共有をすることで、ある程度まとまった内容をそれぞれのレベルに合った単語や文法を用いて、表現できるようになった。 イ 普段の授業やパフォーマンステストを通じて、CEFRのA1レベル(英検3級相当)で話せる生徒が多くいる。

## ■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・作成した課題を提出させ、個別の指導及び全体へのフィードバックを行う。
- ・パフォーマンステストのスライド作成に用いる。

## ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 単元の初めに学習計画を示し、見通しと目標をもたせている。毎授業後と単元の終わりに振り返りを行い、生徒が学習内容と理解の程度を整理できるようにしている。
- 2年 単元の初めに学習計画を示し、生徒が見通しと目標をもつようにしている。毎授業後と単元の終わりに振り返りを行い、生徒が学習内容と理解の程度を整理するようにしている。
- 3年 振り返りシートでの本時のねらいの再確認および次時の予定について見通しをもった学習をしている。

令和6年度 授業改善プラン「成果検証(2月)」